

# 木育環境キャンプ～森のひみつ探検隊～

平成30年12月8日(土)～9日(日)

【目的】 森林での体験活動を通して自然環境への関心を高めるとともに、持続可能な社会の構築に果たす森林の役割について理解と関心を高め、環境保全に寄与する態度を養う。

【参加者】 小学4, 5年生 32名

【プログラムの内容】

## 1日目

- 10:20 はじめの会
- 10:30 アイスブレイク
- 12:50 森を感じよう  
森のフィールド活動／リースづくり
- 18:30 森について学ぼう

## 2日目

- 9:00 森の保全活動を体験しよう
- 13:00 間伐材を活用しよう
- 15:00 おわりの会

### 森を感じよう① 森のフィールド活動



講師として、中村佳津子氏、神保達也氏にお出でいただき、徳地の森に生息する植物や危険植物について説明を受けた後、実際に野外で植物を観察、採集しました。リースづくりに使う蔦の採集では、太いものから細いものまでなかなか簡単には採れず、一緒に引っ張ってたくさん採集できました。

### 森を感じよう② リースづくり



自分たちが採集した蔦を使って、クリスマスリースを作りました。蔦を巻いてリースの形にするまでに苦戦しながらも、声を掛け合いながらそれぞれの大きさ、形に整えていきました。森で見つけた木の実や葉っぱ、松ぼっくりなどをカラフルに色付けしたり、工夫をしながら接着したりと自然物の制作活動を楽しむことができました。完成した作品に笑みを浮かべる表情や友達の作品に声を上げる様子が見られました。

### 森について学ぼう



引き続き、中村氏、神保氏を講師として、森のはたらきや森に生息する生きものについて話を聞きました。森に棲む生きもので日本の固有種か外来種かを班で考えるクイズには、お互いに考えや予想を出し合って答え、正解だったときは大きな声をあげて喜んでいました。森に降った雨が川の水になるまでの話を聞いて初めて知ることに興味津々に聞く姿も印象的でした。

### 森の保全活動を体験しよう



山口中央森林組合の戸田岸巖氏にお出でいただき、森を作り、育てていくお話を聞きました。実際に、のこぎりを使って間伐体験を行い、汗を流して切り倒す大変さと木の重さを感じました。それぞれ回数を決めたり、声を掛け合って協力して切り倒そうと頑張りました。また、戸田岸氏がロープを使って軽やかに木に登っていく姿に驚きの声が上がりました。

### 間伐材を活用しよう



自分たちで間伐した木をのこぎりで輪切りにし、電熱ペンを使って自分の名前や絵を書きました。自分で切り落とした木のおいをかいたり、年輪を数えたりして学んだことを五感を使って楽しむ姿が見られました。電熱ペンで書くときの焦げたにおいや上手にかけた感想などをお互いに言葉を交わしながら楽しんで活動することができました。

#### 【参加者の声】

「森は何もしていないと思ったが、自分たちのためになることをしてくれていることが分かった」、「森が自分たちの命を守ってくれるので大切にしたい」、「工作がとても楽しかった」、「これからも積極的に自然の中での活動に参加したい」などの感想があった。

#### 【成果】

全体満足度は、「楽しかった」は90%、「少し楽しかった」は10%であった。また、これから環境を守っていきたいかに対しては、「守っていきたい」が77%、「少し守っていきたい」が23%であった。森について学んだことや初めて知ったことに対する感想が多く、自然と触れ合う楽しさ、森の保全への意識が高まったと考えられる。

#### 【課題】

間伐と間伐材の切り落としを続けてのこぎりで行ったことで参加した子どもたちの飽きが見られた。また、新しく電熱ペンを取り入れたが、意欲的に使いたい姿が見られた反面、道具の数が足りず、待ちの時間が生まれたため、活動の詳細を見直す必要がある。